「半沢直樹」の池井戸潤原作

噴射加速

宇宙科学開発機構の研究員だった佃航平（阿部寛）が、亡き父の後を継いで中小企業「佃製作所」社長になり、社員とともに奮闘する。ロケットエンジンの主要部品バルブシステムの開発を描いたロケット編に続き、心臓手術に使う人工弁「ガウディ」開発に取り組むガウディ計画編に入っている。

「融資や製品開発など複雑な話を分かりやすく見せる演

「下町ロケット」の一場面。一丸となって〝ガウディ〟発に取り組む佃製作所の社員たち。中央は社長役の阿

コラムニストのペリー荻野さんは、「半沢直樹」でも見られた池井戸原作ドラマの王道がある、と分析する。

「半沢直樹」も「下町ロケット」も、弱者の逆襲だ。テレビ評論家のこうたきてつや般受けはしない。だが、高倉健さんの任侠（にんきょう）映画のように、我慢に我慢を重ねて爆発するというスタイルで描いたことが奏功した」と語る。

荻野さんは、日本人の「ものづくり」への誇りを刺激したんは「ホームドラマの佳作あり、芸術祭賞を狙う作品あり、ローカル局のドラマありという多様性をこの枠で出していければ、〝ドラマのTBS〟の復活が見えてくるのでは」と話している。

見逃し防止通知　ベンチャー一役

話題の番組を見逃さないようにと、TBSは視聴者のスマホやパソコンなどに放送開始の通知を送るシステムを番組ホームページで紹介している。

このシステムは、ITベンチャーの「アンカーズ」（東京都千代田区）が開発した「PM-Engine」で、特許を取得している。視聴者が通知がほしい時間を設定すると、メールやアラーム機能で「下町ロケットが始まります」などと知らせてくれる。同社の徳山真旭社長は「利用者数は不明だが、有効活用されているようだ。私も3回ほど見逃しを防いだ」と話す。

「中小（ベンチャー）企業」「特許」など、ドラマと共通する話題性もあり、TBSが東京のキー局では初めて採用したという。これまでは、宅配便の再配達の時刻設定などビジネスの効率化で利用されている。（藤浪繁雄）

訂正　10日朝刊17面「映画『母と暮せば』　非戦を継ぐ」の記事で、井上ひさしさんの「三女の麻也さん」とあるのは「三女の麻矢さん」の誤りでした。